

広報うつのみやの水道・下水道

私たちの 私くらしと水

2010.5.30
No.26
issue

～宇都宮の豊かな水のめぐみを知る情報誌～

特集

ホタルが飛び、メダカが泳ぐ川
～美しいふるさとを未来へ～

快適で安全な
生活環境を守る下水道

- ◆白沢浄水場太陽光発電スタート
- ◆平成22年度予算のあらまし

モデル：老田怜さん(宇都宮市鶴田町)

特集 【水の旅】 ふるさとのキレイな川を守るために

ホタルが飛び、メダカが泳ぐ川 ～美しいふるさとを未来へ～

私たちの生活が便利で快適になる一方で、多くの生き物がすみかを奪われてきました。ホタルやメダカもその一部です。こうした生き物が再び自然に見られるような生態系の復活を目指し、地道に取り組む人々の活動の一部を紹介します。

ケーススタディ①
ホタルの住むまちづくり

宇都宮市立瑞穂野中学校 「頑張る学校プロジェクト～瑞穂野 ホタルの郷～」



20年前には生息していたホタルを呼び戻そうと、地域ぐるみで取り組んでいる瑞穂野地区。

地域の環境団体「瑞穂野蛍水会」の指導のもと、瑞穂野中学校では、環境学習の一環として、「地域の自然との共生」をテーマに、1年生が毎年ホタルやカワニナの飼育・放流、地域河川の水質調査や清掃活動、調べ学習、PR 活動などを行っています。



ほら、ココ見て!

わぁーかわいい!

水の汚れはどうか?



▲越戸川で水質調査する生徒たち。昨年調査したものと比較し、環境の変化を調べる。

▶校内で人工飼育しているホタル。小さな幼虫が元気に育っているよ!

どうしたら昔のように、ホタルが生息するようになるのか?

なぜホタルがいなくなったのか調べていくと、まず生活排水や農薬などにより川の水が汚れてしまったことが原因の一つだと気づきました。他にも住宅が増えたことによる街灯りや、農地改良に伴い水路がU字溝になったこと、洪水被害防止のための河川工事など様々な要因があることがわかりました。

今年3月、地区の小中学校と瑞穂野蛍水会が、みずほの自然の森公園せせらぎ水路に、人工飼育したホタルの幼虫を放流しました。うまく成長すれば、6月頃にはホタルが舞う姿が見られるそうです。しかし、一度壊れた生態系を復活させるのは簡単ではありません。河川清掃や水を汚さない工夫などを地道に行う一方で、より多くの人の協力が必要だと感じています。ホタルの郷を市民が誇れる日を夢見て、今後さらに積極的に活動していきたいと語ってくれました。



これからも続けるゾ!

ゴミが多くてショック。

川がキレイになるのはうれしいな!

▲地域の河川清掃やゴミ拾いは、ホタルの住みやすい環境づくりの第一歩。地域へのアピール効果も。

ケーススタディ②
農村に春の小川を

メダカ里親の会 (宇都宮市平出町)

「生き物がくらし、子ども達が遊ぶ田んぼを再び」



こういう小川を見つけたら
のぞいてみよう!

農村から生き物がいなくなり、田んぼで遊ぶ子ども達も今ではほとんど見られません。こうした現状をさみしく思い、農村にメダカやドジョウなどの生き物がいる昔の小川を復活させ、子ども達を呼び戻そうと立ち上がった「メダカ里親の会」。農業土木に携わっていた方々が中心となり、農村の水環境保全活動に乗り出しました。

◀メダカが生息する小川。昔ながらの農村風景が広がります。

「水」はすべての生物に共通する大切な命の源。昔は、小川にいつでもあった水が、今は必要な時期にしかありません。昭和30年代にはどこにでもいた、フナ、ドジョウ、ナマズ、メダカなどの魚は、水田で産卵します。水路と水田を行き来して、自然に繁殖するのです。生き物の棲む小川に水が流れなければ、彼らは生きられない。人間の便利さを追求した結果、生態系のバランスを崩してしまったのです。



どんな生き物が
いるかな?

▲市内の小学生が参加した水辺体験学習。自然の小川はたくさんの事を教えてくれます。(メダカの学校 / 平出町)



子どもたち
に来て欲しい!

活動の柱は、「水辺の生き物の保護活動」と農村体験学習「田んぼの学校」。ここ数年は、魚が水田と水路を自由に行き来できる「水田魚道」づくりに力を入れています。「水のネットワーク=人のネットワーク。地域に根ざした活動を通じ、人の関わりを広げることが大切」「まず、生き物のいる小川や農村に親子で行ってみて。小さな生き物に目を向け、触れることで、自然や水の素晴らしさを感じて欲しい」と事務局長の中荻さん。一人でも多くの人の関わりで、日本の原風景～子どもの遊ぶ豊かな田園～復活を目指します。

▲会員が力を合わせて掘った「春の小川」の清掃作業。生き物が当たり前にいる小川を再現し、維持管理しています。

宇都宮の川と水を守るチェックリスト

今日から
できる

「めんどくさい」「私一人がやっても」・・・自分中心になっていませんか?
まずは1つから、自分にできること始めませんか?

- 米の研ぎ汁で食器を洗ったり、床を拭いたり、花壇や庭木の水やりなどに使っている
- 食器を洗う時は溜めすぎをしている
- 「あぶら」をそのまま下水に流さないようにしている (食器の汚れを軽く拭き取ってから洗う)
- 細かい台所くずを下水に流さないようにしている
- 川や池などにゴミを捨てない
- 洗濯や食器洗いの時、洗剤を使いすぎない
- お風呂の水を洗濯や掃除などに再利用している
- 歯みがきや手洗い・うがいの時、水の出しすぎに気をつけている
- 雨水を水やりや打ち水に再利用している (→P4 参照)



川の汚れの原因の大部分は生活排水です。生活排水を出している私たちがちょっとしたことに気をつければ、川はきれいになっていきます。

そのひと手間は、決してムダにはなりません。